

本町通り



みこしが躍る夏の風物詩「与野夏祭り」



毎年1月3日に行われる「与野七福神めぐり」

古くは市場町として栄えた本町通りの沿道には、蔵造りの建物や市場の名残である前庭のような空間などが残っています。平成27年11月に策定した「与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン」では、こうしたまちの歴史や文化を継承するため、歴史ある建築物などを保全するとともに、その活用方策等を地域住民の皆さんなどと話し合いながら検討していきます。また、この通りで行われる「与野七福神めぐり」や「与野夏祭り」には、市の内外から毎年多くの方が訪れ、賑わいを見せています。



まちお君って、ものしりで頼もしいわ。

このあたりは江戸時代から栄えているんだよ。

ボクが教えた情報だけけど...

えっ泣くほど好きになっちゃったの?!



えっ!? どこに帰るの?

もうお別れかぁ... さびしいな...



あっ、先生!

まちお、春からさいたま市内の大学で教えることになったから、引っ越しするよ。

ボクの入る余地はなさそうだな...



うれしいー! また一緒にまちめぐりしましょうね♡ いろいろ楽しくなりそう♪

そうだね。またまちめぐりしようね!

さいたま市への引っ越しが決まり、マリーとの仲も進展。心の底からうれしくなってしまう、まちお君なのでした。

まちおメモ



さいたま市には、その地域ならではの歴史や文化の面影を色濃く残している、何度も訪れたいエリアがたくさんあるんだね。それに、魅力あるまちの特徴や地域資源などを「景観」として一体的にとらえ、個性豊かで人々を惹きつける美しい景観を、将来に受け継いでいくためのまちづくりが進められていることも、よーくわかったよ。

このような取り組みをみんなで協力して進めることで、地域に対しての愛着と誇りが生まれ、市民一人ひとりが「住み続けたいまち」を創っていくことにつながるんだね。

さいたま市が目指すまちの姿

環境と共生し、安全・安心で、郷土としての愛着と誇りが持てる **住み続けたいまち**

活力があり、美しく、魅力に満ちた **訪れたいまち**

旧浦和宿

浦和駅西口からほど近い場所にある旧浦和宿は、古くから中山道の宿場町として栄え、江戸末期から昭和初期頃にかけての趣ある建物が現存しているエリア。歴史ある街道沿いを、さいたま市が策定した都市計画マスタープランでは「景観の軸」と位置付け、線的なつながりや周辺市街地との連続性に配慮したまちづくりが進められています。

「浦和宿けやきの会」代表の原田紀子さんを紹介するよ。



まちお君、よろしくね。

はじめまして、ボク「まちお」です。

まずは関心を持つことから始めよう!



原田代表 行政とも協力しながら、まちの魅力や次世代へ受け継ぐ方法を模索していきたいと思えます。市民の皆さんも、もっと浦和のまちを訪れて、その魅力を知っていただけたら嬉しいですね。

ま 地域の貴重な歴史資源を少しでも長く残していけるといいなあ。

原田代表 表通りに面したものは、わずか数軒のみ。劣化や耐震、維持費用の問題などもあり、残念ながら数は年々減っているんです...

ま 伝統建築って、どれくらい残っているんですか?

原田代表 人や車が多く行き交うまちの中に、歴史や伝統文化を漂わせる建物や場所があることで、奥深く上品な雰囲気が感じられるところですね。

ま 旧浦和宿の魅力は、どんなところですか?

原田代表 1989年に活動開始して以来、建物の見学会や街歩き、講演会などのイベントのほか、イラストマップや絵はがきの制作・販売、模型や絵画、昔の道具の展示など、さまざまな活動を通じて、旧浦和宿に今も残る伝統建築の貴重さを伝えていきます。

ま 「浦和宿けやきの会」について教えてください。



浦和宿けやきの会 代表 原田 紀子 さん

&



ま ちお

インタビュー



イラストマップの作者・仁禮恵子さん



20数年ぶりに旧浦和宿のまちめぐり、イラストマップを新たに描き起こしたのですが、意外な発見があったりして、改めて浦和のまちの魅力を感じることができました。



表通りに面した場所にも趣ある建物が点在

←旧浦和宿に残る伝統建築の魅力が詰まったイラストマップ